

平成 21 年度財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告
平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日
(第 9 期)

◎ 事業総括

第 9 期目となる平成 21 年度は、経営基本方針に基づく 3 年間の中期経営計画の最終年度にあたる年でもあり、定められた諸施策の実現及び目標の達成に努めるとともに、過去 8 期の取り組みと実績をふまえ地域の要としての役割を果たすため、ふるさと公社の設立目的でもある優良農地の保全による美しい農山村の景観の維持、中高齢者を中心とした働く場の提供や、地域活性化に向けた都市・農山村の交流活動の推進など、これらの事業について継続的に取り組んでまいりました。

とりわけ、公社の本質的な取り組み事業でもあり地域課題でもある、農地に関わる事業としての農地保有合理化事業については、事業の利点を活かした取り組みが行える農業公社として、より積極的な事業展開を行い事業の利用についても実績を残すことが出来ました。

また、京都市への編入合併以降、地域の担い手組織として地域住民や行政から年々強まる期待に応えるべく、地域活性化のために設立された組織である、「京北ふるさと産業・観光活性化推進連絡会(アクティ京北)」や京北・水尾・宕陰の三地域から成る「地域協議会」の構成団体として、ふるさと京北の活性化のために、ともに積極的な活動を行いました。

その他にも、緊急雇用対策事業による新規事業の受け入れや、特にウッディー京北については平成 22 年度より道の駅となることに備え、「道の駅ウッディー京北運営推進協議会」や「委託販売者会」の設立、健全な運営を行うための二度目の経営診断の実施など、指定管理者としての運営に伴う準備を整えてまいりました。

なお、平成 20 年 12 月 1 日より施行された、新公益法人制度による新法人への移行については、方向性を見定めるために京都府や京都市主催の研修会への参加や、独自での調査も行い、平成 22 年度より移行に向けての具体的な事務手続きに着手出来るよう取り組んでまいりました。

I 理事会・評議員会の開催

◀ 理事会 ▶

第 1 回理事会 平成 21 年 5 月 27 日(水)

- 1 評議員の選出の件
 - 2 寄付行為の変更の件
 - 3 平成 20 年度事業報告書の承認の件
 - 4 平成 20 年度会計決算の承認の件
- 第 2 回理事会 平成 21 年 9 月 3 日(木)
- 1 平成 21 年度補正予算の承認の件
- 第 3 回理事会 平成 22 年 3 月 2 日(火)
- 1 平成 21 年度補正予算の承認の件
 - 2 平成 22 年度事業計画承認の件
 - 3 平成 22 年度会計予算承認の件
 - 4 平成 22 年度役員報酬等の限度額変更の件
 - 5 バス停留所の設置の件
- 第 4 回理事会 平成 22 年 4 月 5 日(月)
- 1 任期満了に伴う評議員の選出の件

◀ 評議員会 ▶

- 第 1 回評議員会 平成 21 年 5 月 27 日(水)
- 1 寄付行為の変更の件
 - 2 平成 20 年度事業報告書の承認の件
 - 3 平成 20 年度会計決算の承認の件
- 第 2 回評議員会 平成 21 年 9 月 3 日(木)
- 1 平成 21 年度補正予算の承認の件
- 第 3 回評議員会 平成 21 年 11 月 27 日(金)
- 1 辞職に伴う役員の選任の件
- 第 4 回評議員会 平成 22 年 3 月 2 日(火)
- 1 平成 21 年度補正予算の承認の件
 - 2 平成 22 年度事業計画承認の件
 - 3 平成 22 年度会計予算承認の件
 - 4 平成 22 年度役員報酬等の限度額変更の件
 - 5 バス停留所の設置の件

II 本年度主要事業の概要

◀ 公益事業 ▶

(1) 農地保有合理化事業

農地保有合理化法人として農地の「中間保有・再配分機能」を活かし、農地の借り受け、貸し付け並びに売買等に関わる担い手農家の経営規模拡大や、新規就農者の支援活動に積極的に取り組みました。公社事業の柱として事業をさらに

進めるためには、農地情報の収集が不可欠であり、今後も幅広い事業PRと合わせ取り組む必要があると言えます。

[農地保有合理化事業実績]

◇ 買入れ農地 (田)

件数	5 件 (15枚)
面積	12,506 m ²
購入金額	7,690,890円

◇ 売り渡し農地 (田)

件数	2 件 (7枚)
面積	6,121 m ²
売渡金額	4,537,000円

※ 残りは、平成22年度に売り渡し予定。

(2) 農作業受託事業

農業者の高齢化に対応するため、農作業受託部会による耕起・代かき・田植え・稲刈り・除草等の作業ならびに優良農地を維持するための転作田の管理受託に取り組みました。

[農作業受託実績]

◇ 春作業 (受託件数 64件)

耕起	44件	847.50 a (再耕起含む)
代かき	44件	870.20 a (ハロー、ロータリー含む)
田植え	54件	1,137.20 a
畦付け	8件	1,370.0 m
その他	10件	

◇ 秋作業 (受託件数 48件)

隅刈り	24件	30枚
刈取り	48件	1,041.60 a
糞運搬	24件	30,958.80 kg
耕起	19件	447.80 a (ディスク、ロータリー含む)
肥料散布	11件	128.10 a

(3) 都市と農山村交流事業

都市住民との交流により地域活性化を図るため、市民農園やウッディー京北等

でのイベントを開催し、都市住民を京北地域に呼び込むとともに、他地域でのイベントにも積極的に参加し京北地域のPR活動を行いました。

[主催イベント]

- ◇ 市民農園 (1回)
 - ・ 11月21日 市民農園収穫祭
- ◇ ウッディー京北 (4回)
 - ・ 4月12日 春まつり(感謝祭)
 - ・ 7月19日 野旬会感謝祭
 - ・ 11月22日 ウッディー感謝祭
 - ・ 3月27日 春まつり(感謝祭)

[参加イベント]

- ◇ 京北地域内 (2回)
 - ・ 8月16日 京北夏まつり
 - ・ 11月3日 京北ふるさと祭り
- ◇ 京北地域外 (2回)
 - ・ 10月31日 右京区民ふれあいフェスティバル (太秦安井公園)
米・野菜販売、市民農園紹介
 - ・ 11月7日 京の農林秋まつり (伏見桃山城)
米・野菜・玉子かけごはん販売、事業紹介

(4) 公共施設管理事業

① 林産物需要拡大センター「ウッディー京北」管理受託事業

京北地域の中心に属する拠点施設として、文化の香り高い「木と清流の里京北」の産業、観光等様々な情報の発信基地としての役割を果たすとともに、農林産物、加工食品、木材加工品などの地域特産物の需要拡大に取り組んでまいりました。

周山バイパスの全面開通後、入館者についても増加の一途をたどっており、平成21年度は初めて年間25万人を超える入館者となりました。販売品も十分ではないものの、委託販売者との連携を密にする中で地元野菜や、加工食品など回転率のよい商品について徐々に充実をしてまいりました。

また、11月からは京都市より緊急雇用対策事業による「京の時待ち食事業」として人材を派遣いただき、旬野菜のPRを行い販売促進に努めたり、新たに農山村6次産業化促進事業で開発した、京北特産野菜や水尾のゆずを使用したソフトクリームの販売など新しい取り組みも始めました。

このような状況の中で、結果として喫茶の売上を含め米を除く全ての品目において、昨年度を上回る実績を残すことができ、収支についても大幅な改善を見る事が出来ました。

なお、平成22年度からの道の駅に備え、予測されるより多くの入館者に対

応出来るよう委託販売者の登録整理を行い新たに「委託販売者会」として組織を設立したことや、道の駅機能を発揮できるための検討組織として「道の駅ウッドイー京北運営推進協議会」の設立、さらには、より健全な運営を行うための二度目の経営診断の実施なども行いました。

◇ ウッドイー京北入館者数

253,426 人 （平成 20 年度実績 209,404 人）

◇ ウッドイー京北売上高

76,061,954 円 （平成 20 年度実績 59,317,353 円）

② 宇津峡公園管理受託事業

宇津峡公園は都市住民との交流拡大施設としてまた大型アウトドア施設として、コテージ、キャンプ場等、主に京阪神地域からの家族、各種団体、学校関係者を中心に毎年多くの方に利用をいただいています。

特に、リピーターによる固定的な利用者が多いことが、この施設の安定的な運営に寄与している要因であるとともに特徴でもあります。

しかしながら、冬場の利用が少ないため、5月のゴールデンウィークや夏休みなどの繁忙期に利用が集中する中、平成 21 年度はその期間に雨天が多かったことや、新型インフルエンザなどの要因により利用のキャンセルが多くあり、入園者数も昨年実績を上回ることが出来ませんでした。

また、施設の冬季利用に於ける対策については、今年も期間限定の地鶏鍋料理を企画し、広告チラシの配布やホームページでの紹介を行い施設利用を促しましたが、十分な成果をあげることはできませんでした。話題のペレットストーブについても導入が遅れそれを集客材料にすることは出来ませんでした。

なお、2月から3月末にかけて、緊急雇用対策事業として2名を雇用し宇津峡公園クリーンアップ事業に取り組み、施設の整備に取り組みました。

◇ 宇津峡公園入園者数

9,657 人 （平成 20 年度実績 10,134 人）

◇ 宇津峡公園利用料金

16,800,931 円 （平成 20 年度実績 18,585,944 円）

(5) ふるさと振興等調査研究事業

地域活性化のための取組みとして、都市住民の京北地域への定住促進を図るため、「(財)きょうと京北ふるさと公社空家情報提供マニュアル」に基づき空家情報の収集・提供や、「市民農園」の利用者拡大募集と運営に取り組みました。

① 空家情報の収集及び斡旋の取組み

地域の実態として、日常的には空家となっているが盆や正月、連休等に帰

省される方も少なくないため、都市住民からの相談件数に比べ空家の提供者が少なく空家の確保が困難であり事業の課題となっています。

このような状況の中、平成 21 年度は空家登録件数 5 件、定住 1 件の実績となりました。

② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

開園 3 年目となる市民農園では、平成 21 年度も開設目的である都市住民と地域住民との交流を深め、京北地域への定住促進や地域の活性化をより進めるため、利用者の拡大募集を行い、土・日、祝祭日を中心に多くの利用者に京北地域へ来ていただくことが出来ました。

とりわけ、毎年恒例となった秋の収穫祭では、地元寺山地域の人にも参加を得ることが出来、農園利用者、公社関係者合わせて約 70 名が野菜なべや卵かけご飯で昼食をとりながら、品評会の話題などで交流を深めることが出来ました。

また、昨年同様野菜農園の一角には、公社が「さつまいも」を栽培し、安心出来る地元食材として地域の学校給食用の食材としても好評を得ることが出来ました。

i. 平成 21 年度「市民農園」利用実績

・野菜農園

区画数及び利用者数 …… 53 区画、41 名

※ 20 年度 47 区画、39 名

年間利用料 …… 一区画(約 40 m²)当たり 15,000 円

ii. イベント等の取組み

・ 5 月 2 日 野菜農園野菜苗引渡しと植付指導

・ 11 月 21 日 市民農園収穫祭

(6) 地域特産物開発研究事業

地域特産物開発に力を注いでいるグループの加工食品を、ウッディー京北や各イベントにおいて積極的に取り扱いました。

また、食育や地産地消の取組みとして、従来より京北地域の各小学校へ給食食材として地元野菜を納入しており、その安定的な取扱いと、平成 18 年度より取組んでいるウッディー京北での安心で安全な京北産野菜の販売拡大のため、ふるさと公社の登録生産者の会員拡大や、農業サポート人材対策事業による野菜の生産拡大に取り組んでまいりました。

しかしながら、冬から春にかけての野菜不足における課題について解消された訳ではなく、更に改善を図る必要があるといえます。

◇ ウッディー京北委託販売者会員数 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

161 名

※ 内、生鮮食品販売者 64 名 加工食品販売者 31 名

- ◇ 平成 21 年度ウッディー京北野菜販売高
12,525,800 円 (平成 20 年度実績 7,602,250 円)
- ◇ 平成 21 年度学校給食地産品取扱高 1,133,633 円
 - 野菜 704,004 円 (平成 20 年度実績 388,585 円)
 - 納品総重量 2,007.3 kg (平成 20 年度実績 1,132 kg)
 - 米 31,005 円 (平成 21 年度より新たに納入)
 - 味噌 398,624 円 (平成 21 年度より京北地域外へ納入拡大)

(7) 地域担い手確保事業

地域住民の幅広い要望に応えるため、田舎の便利屋事業により多種多様な作業を受託し、平成 20 年度からのスクールバス事業の全面受託に伴う運転業務の受託や、行政機関及び地域法人（組織）からの作業受託にも積極的に対応し、人材登録者の核である中高齢者の雇用拡大に努めました。

しかしながら、緊急雇用対策事業により地域内の法人からの依頼が減少したこともあり、結果として昨年度を上回る実績を残すことは出来ませんでした。

- ◇ 登録者数 (平成 22 年 3 月 31 日現在)
313 人 (60 歳以上 194 人、60 歳未満 117 人、会社等 2 人)
- ◇ 受託件数
555 件 (平成 20 年度 575 件)
- ◇ 作業延べ人数
4,260 人 (平成 20 年度 4,825 人)
- ◇ 受託金額
45,645,232 円 (平成 20 年度 51,609,005 円)

(8) 地域交通事業

① 京北ふるさとバス運営事業

地域唯一の公的生活交通手段であり、道路運送法に基づく過疎地有償運送事業として、京都市との連携のもと地域住民の“足”となるべく運行を行い、関係者各位のご指導ご協力もあり大きな事故もなく順調に事業を進めることが出来ました。特に運行については、点呼執行者を明確に配置し安全運行に努めました。

また、一昨年 9 月末に於ける J R バス京北出張所の閉鎖に伴い、京北地域の交通窓口としてふるさと公社が、引続きふるさとバス運営事業の中でその業務を担っている、地域バス案内所では京北地域の交通案内・観光案内をはじめ、定期券の発券や共通回数券の販売など、多くの方にご利用いただける結果とな

っています。

現在、地域交通としてのふるさとバスの運行は、地域の人口が減少するに伴い乗車人員も年々少なくなっており、平成 21 年度には乗車人数が 10 万人を割る結果となっています。とりわけ、中学生徒の減少が年間の乗車人員と運行収入に大きく影響を及ぼす傾向となっています。

このような状況の下、今後も地域の重要な生活交通手段としてのバス運行が存続できるよう、ふるさと公社の地域交通事業としてのみならず、京北地域が一丸となって今後のバス運行事業について考え、取組んでいかなければならない時期を向えているといえます。

② スクールバス運行受託事業

京都市との合併以降、京北地域児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会からの受託事業として取組んでまいりました。

平成 20 年度からは、乗務員を含め全面委託を受け取り組んでおり、学校や京都市教育委員会との連携をとりながら一層の安全運転に心掛け運行しています。

(9) 緊急雇用対策事業

① 農業サポート人材対策事業

平成 21 年度事業予算 8,293,240 円で事業に取り組み、3 年間の継続事業として、農地の有効活用を促進するとともに、農地を守るための新たな担い手育成事業として 3 名を雇用し取り組みました。

この事業の中で、学校給食への提供野菜や京唐菜や京ラフランといった特色のある野菜の生産も行い、ウッディー京北はもちろんのこと、昨年 6 月亀岡市でオープンされた J A 直売所「たわわ朝霧」への出荷も行っています。

② 農山村 6 次産業化促進事業

平成 21 年度年度事業予算 4,600,000 円で事業に取り組み、3 年間の継続事業として 1 名を雇用し、「京北の味プロジェクト」として京北地域の農作物を利用した地域の特産加工品の開発に取り組み、主なものとして、ウッディー京北でのご当地ソフトクリームの開発を行いました。

③ 宇津峡公園クリーンアップ事業

平成 21 年度年度事業予算 2,500,000 円で事業に取り組み、単年度事業として 2 名を雇用し、宇津峡公園の設備の老朽化に対する改善、整備を行いました。

◀ 収益事業 ▶

公益法人としての事業活動に一定の制約がある中、公益事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するため、収益事業に取り組みました。

(1) 葬祭関連事業

高齢化が進行し、家屋様式や住民意識が変化している今日、京北地域の現状や住民の生活実態を鑑み、厳粛な中にも簡素な葬儀が執り行われるべく貸館事業に取り組んでまいりました。

告別式当日の初七日法要が多くなるなど、葬儀形態の変更に伴い会場利用もそれに対応すべく進めてまいりましたが、要望として火葬場へのマイクロバスによる送迎の声もあり、平成 21 年度より利用者にトータルの費用として還元できる方向で、マイクロバス導入と葬祭会場利用料金の改定を行い、利用者の利便性を図りながら事業に取り組みました。

なお、年間の会場利用件数は昨年度よりも 7 件少なく 38 件でありましたが、平成 16 年のオープン以来延べ利用件数が 206 件となりました。